

## シカネマブ

日本人が一番なりたくない病気は認知症だという。が、2年後には、高齢者の5人に1人は認知症になるという推計がある。

81歳のOさん。「センセ。新しい認知症の薬を、すべにでも使いたい。私費でもよい」と、お金持ちは違う。8月21日に、日本でも承認が了承された新認知症薬「シカネマブ」のことである。

シカネマブというのは、認知症の中でも一番多いアルツハイマー病の進行を緩やかにする薬である。アルツハイマー病は、脳にアミロイドβというタンパク質が蓄積して神経細胞を壊していくから起きる。シカネマブは、そのアミロイドβに結合して除去する抗体である。2週間に1回、点滴投与する。臨床試験（治験）では、悪化速度を27%抑制したという。学問的には、明らかな改善が見られたということになる。

だが、Oさんなどは、シカネマブで認知症が治ると勘違いしている。だから、薬価が、アメリカでは1年間に3885万円だ、日本でも高額になるだろう。だが、期待が先に立つのだ。それが、実は、症状の進行を先延ばしできる程度のものである。というのは、がっかりしてしまうのである。

さて、シカネマブの効果がイマイチだったのは、何故なぜだろう？治験の対象は、軽度認知障害や軽度の認知症の患者さんで、脳内にアミロイドβの蓄積が認められたものであった。つまり、それなりに病気が進んで、すでに認知機能の回復が難しい患者さんも含まれていたからではなからうか。

シカネマブ投与で、アミロイドβの蓄積が抑えられることは事実のようだ。ならば、シカネマブを、認知症のリスクはあるが、いまだアミロイドβの蓄積が進んでいない人たちにも投与する。即ち、すなわ「認知症の予防薬」としての効果に期待するのはどうか。夢で終わるような話ではなからう。

（石黒修三＝いしほろくりニク・脳神経外科医・9/5北國新聞掲載）